

動詞に後続するマデダの意味と分類

1LT16120E 古川佳穂

1. はじめに

マデは、様々な品詞に接続することができ、研究によって分類に多少の違いはあるが、いくつかの用法が指摘されている。¹

- | | | | |
|-----|----|--------------------|---------------|
| (1) | a. | 東京マデ行く。 | (動作の到達点／格助詞) |
| | b. | かなり遅くマデ仕事をした。 | (範囲の終点／順序助詞) |
| | c. | 彼女は歩けるようになるマデ回復した。 | (状態の到達点／程度副詞) |
| | d. | 子供にマデ馬鹿にされた。 | (意外性／とりたて詞) |
| | e. | 上の命令に従ったマデだ。 | (慣用句的な用法) |
| | f. | 間に合わなければ徹夜するマデだ。 | (慣用句的な用法) |

そのなかでも e と f は慣用句的な用法と言われており、a-d の用法とはかなり異なった意味を表している。私は、この慣用句的な用法が「動詞＋マデダ」という形をとることに注目し、次の問題に取り組んだ。

- (2) 動詞にマデダが接続する場合のマデには、どのような意味／機能があるのか？

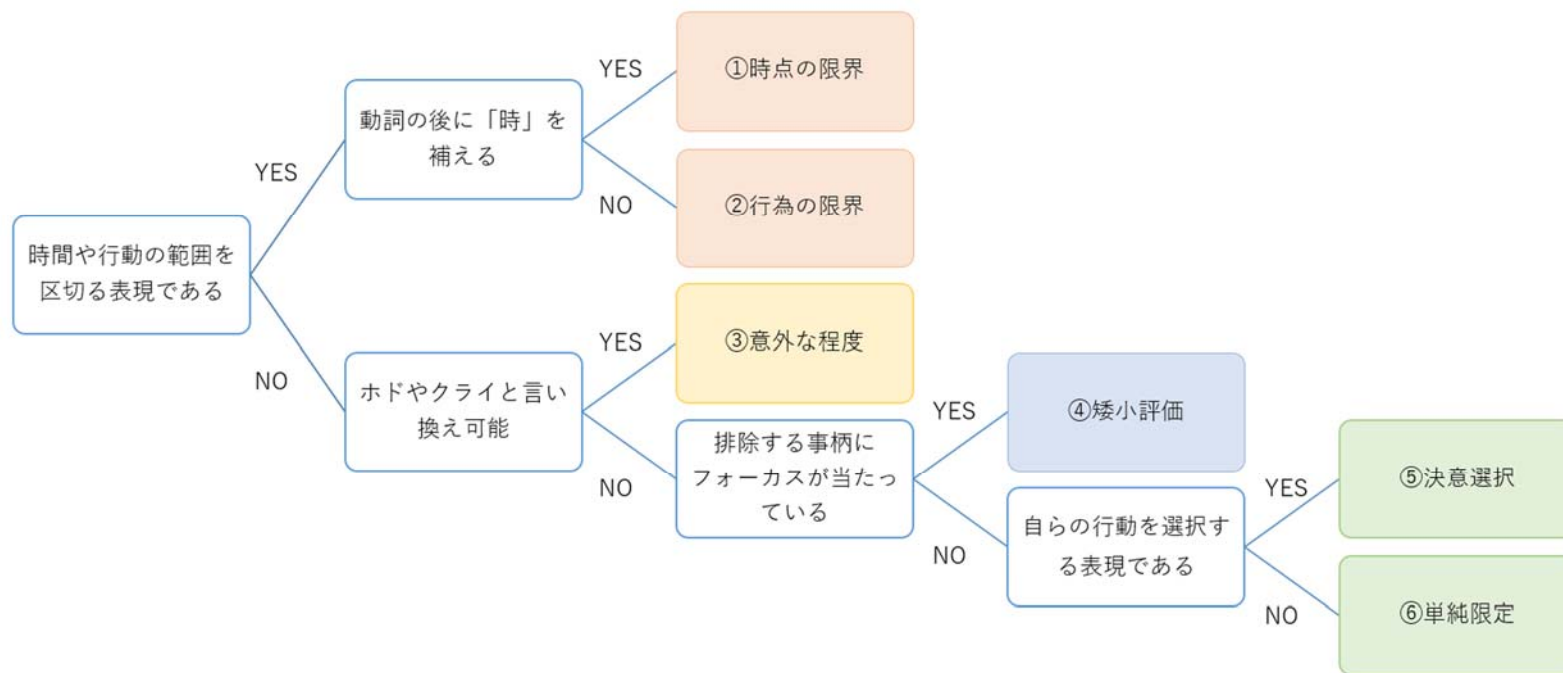
¹ 奥津(1966)、寺村(1991)、沼田(2000)などがあるが、本卒論では最も新しい沼田(2000)について主に紹介する。

2. 動詞+マデダ文の分類とそれぞれの機能

「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」を使って抽出した例文をもとに、動詞+マデダ文の例を6つに分類し、それぞれの意味を分析した。

大分類	ラベル	意味・役割	特徴	例文
範囲	①時点の限界	ある要件を満たす時間的な範囲の限界がPの起きる時点であるということを表す。	Pの後に「時」が補える 順序助詞マデ+ダ	(3) 今の勤めを辞める <u>マデナ</u> んですよね、山に行けるのも。 (4) 億劫なのは始める <u>マデデ</u> 、始めてしまえばずいぶん楽になる。 (5) 「いつまで、ここにいるんですか？」 「這い出てくる <u>マデダ</u> よ」 (6) どんな出来事でも、噂が生きているのは、つぎの出来事がおこる <u>マデダ</u> った。
	②行為の限界	順序・序列がある複数の行動・事象の集合の中で、ある要件を満たすのはPが限界点であるということを表す。	順序助詞マデ+ダ	(7) 山仕事と聞いてイメージするのは、木を植え育て、伐って丸太にする <u>マデダ</u> と思います。「レジャー林業」がやっている山仕事も間伐程度までです。 (8) あくまでも、私の意見ですので、参考にさせていただく <u>マデデ</u> 、ご自分の言葉で伝えるのが一番かと思います。
程度	③意外な程度	Pという事象が、ある状況における物事の程度を示す指標になることを表す。 Pは重大・意外な事象であるということも表す。	ホドやクライと言い換え可能 程度副詞マデ+ダ	(9) 親に会う <u>マデダ</u> から遊ばれているはずがないじゃないですか。 (10) わざわざ会いに来た <u>マデダ</u> し、よほど大事な用だったのだろう。

<p>排除 フォーカス</p>	<p>④矮小評価</p>	<p>P以外の行動や事象を排除し、Pのみに限定する。</p> <p>「Pは排除する行動や事象と比べて責任や重要性、意外性や大変さなどといった基準において規模が小さい」と、発話者がPに対して矮小評価をしていることを表す。</p>		<p>(11) 実体験を書いた<u>マデダ</u>。たいしたことは書いていない。</p> <p>(12) これも陛下のおん為によからぬことをやめていただくとした<u>マデデ</u>、一点の私心もなく、ひたすら忠誠の心から敢てしたことである</p> <p>(13) 「あたしの話が偽りだとも言う気ですか」 「合点がいかないと言った<u>マデダ</u>」</p> <p>(14) 大した地震じゃない、ちょっと揺れた<u>マデダ</u>。</p>
<p>限定 フォーカス</p>	<p>⑤決意選択</p>	<p>ある条件の下で、話者がPという選択肢を選ぶ意志があることを表す。</p> <p>Pは話者にとってはたやすいこと、やって当然のことだというニュアンスが生じる。</p>	<p>条件節が前文にあることがほとんど</p>	<p>(15) 公平な話ってひどすぎる！ようし、ジュリアが何もしようとしなければ、わたしがやる<u>マデダ</u>わ。彼女から、後できっと感謝されるわ</p> <p>(16) もし義昭が討ちとられたときは、逆賊三好三人衆を討滅し、わが力で畿内を制圧する<u>マデダ</u>と、信長は決心している。</p> <p>(17) 第7施設群の20代後半の2等陸曹は、「7月中旬、親類に『カンボジアに行くかもしれない』と、電話で連絡した。反対する人もいたが、命令があればそれに従う<u>マデダ</u>」と話している。</p> <p>(18) 食えなくなって飢えるならば、私は飢えて死んでも良い。私は謹んで餓死する<u>マデダ</u>。「餓死する」腹は決った。鉄より堅い大安心がここにある。</p>
	<p>⑥単純限定</p>	<p>その状況においては、Pが動作主の行う唯一の事柄であるということを示す。</p>	<p>発話者と動作主が同一でない または 「あとは」などの表現がある</p>	<p>(19) 走って行って、ポストの口に茶封筒を落とす。完了。後はゆっくり歩いて帰る<u>マデダ</u>。</p> <p>(20) 気合い入れて準備したってどうせ恥をかく<u>マデダ</u>ぞ。</p>



	BCCWJ からとった例文数	
	ル形+マデダ	タ形+マデダ
① 時点の限界	42	0
② 行為の限界	3	0
③ 意外な程度	1	0
④ 矮小評価	5	69
⑤ 決意選択	22	0
⑥ 単純限定	2	0

3. 先行研究との違い

3.1. 藪崎(2002)

- (21) 「動詞+マデダ」は「限定する事柄が当然・容易である」こと、かつ「排除する事柄が意外・困難である」ことを表す。

この記述が当てはまるのは、私の分類中の④「矮小評価」のみである。

- (11) 実体験を書いたマデダ。たいしたことは書いていない。

(矮小評価)

限定する事柄	実体験を書いた	当然・容易
排除する事柄	たいしたことを書いた	意外・困難

①「時点の限界」②「行為の限界」③「意外な程度」⑤「決意選択」⑥「単純限定」には当てはまらない。

- (3) 今の勤めを辞めるマデナんですよね、山に行けるのも。 (時点の限界)

限定する事柄	なし	—
排除する事柄	なし	—

- (7) 山仕事と聞いてイメージするのは、木を植え育て、伐って丸太にするマデダと思います。「レジャー林業」がやっている山仕事も間伐程度までです。

(行為の限界)

限定する事柄	伐って丸太にする以前	当然・容易ではない
排除する事柄	伐って丸太にするより後	意外・困難ではない

- (9) 親に会うマデダから遊ばれているはずがないじゃないですか。

(意外な程度)

限定する事柄	なし	—
排除する事柄	なし	—

- (16) もし義昭が討ちとられたときは、逆賊三好三人衆を討滅し、わが力で畿内を制圧するマデダと、信長は決心している。 (決意選択)

限定する事柄	逆賊三好三人衆を討滅し、わが力で畿内を統一する	当然・容易
排除する事柄	話者は想定していない	—

- (19) 走って行って、ポストの口に茶封筒を落とす。完了。後はゆっくり歩いて帰るマデダ。 (単純限定)

限定する事柄	ゆっくり歩いて帰る	当然・容易
排除する事柄	話者は想定していない	—

3.2. 安部(2002)

- (22) a. マデダには、「発話者が〈ある条件のもとに想定される事象〉あるいは〈ある意見について想定される事象〉という前提集合を作り、その要素に主観的な位置づけを行い、その中で、当該要素を、発話者自身が行う・考えることの限界点であると表明する働き」がある。
- b. 「たいしたことではない」というニュアンスが感じられる

この記述は、②「行為の限界」には当てはまる。

- (7) 山仕事と聞いてイメージするのは、木を植え育て、伐って丸太にするマデダと思います。「レジャー林業」がやっている山仕事も間伐程度までです。 (行為の限界)

前提集合	木を植え育てる、伐って丸太にする、加工し販売する、等
主観的な限界点	伐って丸太にする
たいしたことではない	○

- ①「時点の限界」③「意外な程度」④「矮小評価」⑤「決意選択」⑥「単純限定」には当てはまらない。

- (3) 今の勤めを辞めるマデナんですよね、山に行けるのも。 (時点の限界)

前提集合	×
主観的な限界点	×
たいしたことではない	×

- (7) 実体験を書いたマデダ。たいしたことは書いていない。
(矮小評価)

前提集合	実体験を書いた、体験したことのないことを書いた、等
限界点	×
たいしたことではない	○

- (9) 親に会うマデダから遊ばれているはずがないじゃないですか。
(意外な程度)

前提集合	×
限界点	×
たいしたことではない	×

- (16) もし義昭が討ちとられたときは、逆賊三好三人衆を討滅し、わが力で畿内を制圧するマデダと、信長は決心している。
(決意選択)

前提集合	×
限界点	×
たいしたことではない	○

- (19) 走って行って、ポストの口に茶封筒を落とす。完了。後はゆっくり歩いて帰るマデダ。
(単純限定)

前提集合	×
限界点	×
たいしたことではない	○

3.3. 小原(2006)

「～が限度だ」という意味で、格助詞としてのマデの意味から予測できるマデダは、ある範囲での終点を表しており、「マデ+ダ」である。小原(2006)は、これは助動詞相当のマデダとは別のものであると考え、考察対象から外している。

そのほかの慣用句的な意味を持つ動詞+マデダ文の意味について、小原(2006)は次のように記述している。

・ル形+マデダ

- (23) 必須である条件節等を X とし、マデダが後接する節を Y とすると、
「X という状況の場合、最も実現困難である Y という選択肢を選ぶ」という
ある状況下での話し手の「選択」を表す。

・タ形+マデダ

- (24) a. 「実現済みの事態に対する、周囲の評価とは異なる、話し手の評価」が表される。
b. このような意味と共に「実現済みの事態に対して、たいしたことをしていない」という含意を伴う。

(23)は⑤「決意選択」に近いが、「最も実現困難である Y という選択肢」という部分が実際とは異なる。

- (16) もし義昭が討ちとられたときは、Y 逆賊三好三人衆を討滅し、わが力で畿内を制圧するマデダと、信長は決心している。 (決意選択)

Y が「最も実現困難である」という含意はなく、むしろ「たやすいことだ」というニュアンスを感じる。

(24)は④「矮小評価」にあてはまる。

- (7) 実体験を書いたマデダ。たいしたことは書いていない。 (矮小評価)

「実体験を書いた」という実現済みの事態に対して、「たいしたことではない」という話し手の評価を表している。また、周囲は話者と違って「すごいことをした」と評価しているであろうことも感じられる。

しかし、ル形+マデダで④「矮小評価」、(24)のような意味を表す例も少数ながらある。

4. 参照文献

- 安部朋世(2002)「「とりたて」のマデの意味分析」『鶴見大学紀要』第39号第1部 国語・国文学編, 9-21.
- 奥津敬一郎(1966)「「マデ」「マデニ」「カラ」ー順序助詞を中心としてー」『日本語教育』9: 2-23. 日本語教育学会
- 小原佳那子(2006)「助動詞相当のマデダの意味」『国文鶴見』第40号, 1-11.
- 寺村秀夫(1991)『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』, 東京: くろしお出版
- 沼田善子(2000)「とりたて」『日本語の文法2 時・否定と取り立て』東京: 岩波書店. 153-216.
- 薮崎順子(2002)「「ダケダ」と「マデダ」」『日本語文法』12(1): 54-70.